

平成 18 年度鳥取市政懇話会 第 2 回全体会 議事要旨

日時：平成 18 年 12 月 8 日（金）午後 3 時～午後 4 時

場所：鳥取市役所本庁舎全員協議会室

田中企画調整課長 各部会に引き続き、全体会の方を開始いたします。私は、この 12 月 1 日より企画調整課長を拝命いたしました田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、八村会長さんにごあいさついただきまして、引き続き議事を進行していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

八村会長 会長を務めさせていただいております八村でございます。

今日は、本当に年末のお忙しい中を、またお天気ももう一つのところですけども、お昼からおいでいただき、各部会で長い時間御討議をいただきまして、本当にありがとうございました。この市政懇話会も始まって 2 年間、今年の 12 月末までということで、本日が最後の部会、全体会でございます。2 年間いろいろ皆さんの御意見、御提案をいただきまして本当にありがとうございました。

特にことしは春に市長さんの再選があり、またこのたびは市議員さんの選挙もあって、大分変わってきたところでございます。鳥取市としては、第 8 次総合計画というものを作って、それに対する御意見をいただくということから始まって、現在の大きな課題としては 2009 年の鳥取自動車道の開通について御協議をいただいたということでございまして、2009 年の課題については先般も 2009 鳥取・因幡の祭典ということで、2009 年に向けて、特に観光のを中心にしてこれからいろいろと決めていこうということになっているところでございます。これは皆様の御協議の結果、そういうことになったかと思えます。

そして、これを各部ごとに 8 か月余りに御討議をいただいた意見をきょうはまとめて発表していただくということでございますが、この大きくなりました鳥取市をよりよい都市、我々の住みよい都市ということで我々が提言をしているわけでございまして、各部会からのさまざまな御意見をここでまとめさせていただいて、この今回の市政懇話会のまとめとさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ごあいさつを終わりました、それではこれから議事に入らせていただきます。座らせていただきます。

それでは、議事に入らせていただきます。

まず、各部会報告の方から入っていきます。市政のいろんな課題についてまとめていただきましたので発表いただきますけども、時間の関係上、10 分程度にまとめてお願いをしたいと思います。

最初に、地域づくり部会の報告をよろしくお願いいたします。

三田副部長 失礼いたします。地域づくり部会でございます。本来ですと木村部長が報告する予定でございましたけれども、きょうは欠席でございますので、副部会長の三田が代わりまして報告をさせていただきます。

地域づくり部会では、皆さん御存じのように、鳥取自動車道が平成 21 年の開通をめざ

して整備が着々と進められているところでございますけれども、その中でいろいろな地域経済が活性されることが期待されております。その中では、地域の衰退が懸念されている中山間地域の振興を盛んにするために、地域の特性を生かした町づくりを進める必要があるということで、この部会では18年度のテーマを「中山間地域の振興について」と決めております。さらに、サブテーマを2つ設けまして、3回にわたり部会を開催して、議論を深めてきたところでございます。そうしたことについて提言をしたいと思っております。

テーマの1つといたしましては、1つには「鳥取自動車道開通後の中山間地域の振興策」でございますけれども、長期的な振興策、短期的な振興策、そしてインフラ整備の3つに分けて提言をしたいと思っております。

まず1つでございますけれども、長期的振興策です。長期的振興策の1つ目は、ヘルスツーリズムの導入でございますけれども、私たちを取り巻く社会においては健康問題が何といても大切で大きくクローズアップされるところでございます。そのニーズも高まっているというところで、農業体験、漁業体験、旅行を通じた健康の維持、増進を図るということをまとめました。そして、保養を目的とした温泉浴、森林浴旅行を推進する。また、医療的な健康増加をめざす食育ツアーということも推進するという案も出ております。鳥取市には、御存じのように5つの温泉があり、自然も豊かでございますので、こうしたことを十分に生かして、歴史、文化財、古い町並みなどをあわせたコースも考えられるというようなことで、こうしたものを上げております。

そして2番目に、中心市街地における近隣型商店街の振興でございます。中心市街地における近隣型商店街の振興は、周辺の中山間地域の活性化にとって無縁ではないということはあるまでもございませぬので、こうした点を強調していきたいと思っております。最寄りの品中心の近隣商店街の整備とか、定期的な市ですとか、楽しい高齢者のファッション市とか、フリーマーケットだとか、そういったものの楽しい市を体験する、経験するということが大事になってくるのではないのでしょうか。

そしてまた3番目としては、鳥取の地域特性を生かした伝統産業などの文化型産業の振興ということも強化したいと思っております。その中には伝統産業の振興、和紙産業などが代表的でございますけれども、そうしたもの、あるいは地域の食材を用いた食品産業の育成や過去の食文化の掘り下げ、また地元出身の歴史上の著名人を生かしたコンテンツ産業の育成、観光との連携というようなことも大事な視点だというふうに思います。こうした鳥取の地域特性を生かしたというのが最も鳥取らしいということでございませぬけれども、こうした文化産業がもうかっていくような産業をめざすというのが21世紀のテーマでもあろうということで、こうしたことを大いに充実をさせるということを提言したいと思っております。

今度は短期的な振興策ということでございませぬ。幾つか上げてございませぬけれども、読んでみたいと思っておりますが、1は、鳥取ならではの食の祭典、イベントの開催でございます。2番目は、旅行会社との提携による買い物ツアーの定期的実施。3番目は、年間を通じた地域イベント暦の整備、定期的な発行。4番目は、旧町村単位、町内会単位での文化、スポーツ、特産交流など、市街地と中山間地の交流の促進です。5つ目、持ち帰りでの各地域自慢大会のようなイベントとして、旧町村の特産物の交流フェアを開催し

てはどうか。6つ目として、地域文化の伝承として、小学校レベルでの合同文化発表会の開催。7つ目として、交流人口の増加のための田舎体験ツアーの実施。8つ目として、グリーンツーリズム受け入れモデル地区の選定。9つ目として、特色あるグリーンツーリズム。最後に、受け入れ体制でございますけれども、こうしたいろいろなものがありましても、受け入れるところが大切になってきますので、温かく受け入れる気持ち、おもてなしの心を育てるといふことも忘れてはならないと思います。

さらに、インフラ整備についてでございますけれども、いろいろ意見が委員の中からも出ましたが、1つには道標の整備です。国、県道からの市道、農道へのルートの表示が十分ではないという指摘がありました。その辺を整備する必要があるのではないかと。2番目、観光地域への案内表示の再点検及び整備でございます。3番目は、農産物の販売の位置を掲示した地図やパンフレットの作成をしていくというようなことを上げました。4番目として、アンテナショップの設置です。5つ目として、新鮮な農作物を食材とした食事どころの整備というようなことはどうであろうかということで提言したいと思います。

大きいテーマの2つ目は、「中山間地域のコミュニティの充実・強化」ということでございます。地域における個別の支援と地域全体としての活性化策に分けて提言をしたいと思います。1つには、地域活動を中心とした活性化への支援強化です。住民の自主活動への支援の強化、例えば納涼祭ですとか、運動会、環境保全活動、研修会などへの支援を強化する必要があるということです。2つ目には、集落単位での活動への支援です。それには、ふれあいサロンの拡充や強化です。それから2つ目として、地域通貨の活用、こういうものを設けてはどうだろうかというようなことがあります。地域の相互扶助機能が低下している現状を踏まえまして、こうした地域通貨制度を活用して、お互いが遠慮なく扶助を受けたり提供したりすることができることによりきずなが強まり、コミュニティの増進につながるということなのですけれども、今回の場合は福祉、介護というような地域通貨を出してはどうかという意見でございましたけれども、福祉、介護に限らず、もっと幅を広げる、あるいは地域もいろいろな場所に拡大していくというようなことにおいてこうしたものを活用することは、なかなかおもしろいアイデアではないだろうかということで提案をしたいと思います。

また、公民館活動の円滑な実施体制ということでございますけれども、これからは公民館活動というものが重要な役割を果たしていくものになるのではないかとことです。できた当時と現在では公民館の役割もたいへん違うということで、あるいは館長の人材の選び方ですとか、そういったものも考えていく必要があるというようなことで、公民館は本当にコミュニティの中心的な場所になっていくであろうと思われ、この部分ではかなり討議が進み、深まってまいりました。館長も、どちらかといえば今までは名誉職だったけれども、これからは現職の若い館長さんが登場してもいいのではないかとというような意見も出ておりました。提言いたしたいと思います。

その次、2番目といたしまして、地域全体としてのコミュニティの強化でございます。1つには、インターネットを活用した意見交換の場の充実です。何といたしても情報化の推進は避けて通れないことでございますので、こうしたインターネットを活用した意見の交換というものを重要視していきたいものだと思います。2番目といたしましては、

地域リーダーの養成、やはり何といても人が財産ですので、地域リーダーの養成をしていく。そして、3番目は、各地区の取り組みのPRということを上げております。

以上が地域づくり部会の報告でございます。これで終わらせていただきます。

八村会長 ありがとうございました。

それでは、続いて教育福祉部会の発表をお願いいたします。

安藤部会長 失礼します。教育福祉部会の部会長の安藤でございます。

私どもは5回にわたりまして協議をいたしました。12名の委員でありますから、5回が4時間で20時間、20時間掛ける10人で200時間の内容を私のような者が十分に報告できかねますけれども、力いっぱい報告を申し上げます。

私どもは教育、それから福祉、人権の3分野について提言なり意見の発表をしてまいりました。まず教育につきまして、1番は危機管理という言い方をしております。何が危機なのか。皆さん既に御存じだと思いますけれども、子供の命の危機であります。学校の登下校の問題から、現在はテレビ、新聞で大変にぎやかな、学校におけるいじめの問題、いずれも命にかかわる問題であります。これらについて、どういう施策をするべきか、どういうことを考えるべきかということで、極めて具体的なことをそこに書き上げております。

理念でなくして、具体的行動こそ、今我々がとるべきことではないのかということでありまして、委員の方から提案もありましたが、公用車に防犯パトロールのステッカーを貼ってはどうか。この自動車が校区内をそれぞれ時間ごとに走るとなれば、大きな抑止力になるのではないかとということで提案がありました。

ある委員は、市の警察署に赴かれまして、いろいろと研究、指導を受けてこられました。こういうことを市の教育委員会の方でも取り上げられたのでしょうか、各地域に子供の見守り隊というふうなボランティア団体が小学校区ごとにだんだんできつつあります。その時間になるとボランティアさんが学校に出向いて、腕章をつけて子供たちをあるところまで一緒に帰ってあげるという、そういうボランティア活動が今地域にだんだん浸透しておるということであります。これらにつきましては、市の方の呼びかけもかなりあったようではありますけれども、自主団体という言い方がいいかとは思いません。

いろいろ書いておりますが、次にその一番下の命の大切さを社会全体でもっと考える機会をつくるべきではないか。学校もそうだ、家庭もそうだ、地域もそうだ、連携、連帯ということを使うけれども、具体的な行動はどう起こすのか、ここらあたりが施策ということの上からも重要な点であると。学校での子供のいじめは親も不幸でありますし、子供自体もそうでありますが、社会もそうであるという認識はできておるけれども、行動はそうはつながらない。そこで学校の先生あるいは家庭でもう少し子供に対して目と心を配る活動を推進するべきではないかということでありまして。あとは省きます。

次に、情報の問題ですが、これは情報の共有という言い方をしておりますが、やりましょう、やりましょうとは言いながら一方通行ではいけないのではないかと。学校も地域も一つになる活動はどういう活動なのか。1つには、そこに書いてありますが、小学校の学校便り、校長の意見、学校で何をやっているか、そういう具体的なことをもう少し地域に発信してはどうか。いわゆる学校便りのようなものを地域にもっと配ってみては

いかがですかと、そこに学校と地域の信頼が生まれるのではないか、信頼こそ何事の根本でもあると、こういう考え方であります。

次に、3 番目ですが、子供のモラル・マナー・ルールを身につけようという、これは市教委が一生懸命、去年、おとしごろから言っておられまして、大きなイベントもありますし、青少年育成協議会という会でのイベントも行われております。子供たちの意見発表もあります。そういう大きな活動はあるが、地域での小さな、身についた活動はもっとなされるべきではないかということでもあります。幾つか書いてありますけれども、学校、家庭における常識教育が必要だ、こういう言い方がしてあります。常識教育とは何だろう。罰が当たるよとか、昔から言う言葉があるのではないか、家庭でもっと子供にそういうことをわからせ、教えなくてはいけないのではないかということでもあります。学校におけるマナー、ルール、もっと言えば大人の社会のマナー、ルール、モラルをもっと意識的に行動しなくてはいけないのではないかということでもあります。

そこで、行き着くところの一つとして親の学習ということがある。今の若い親たちという言い方は大変失礼でありますけれども、親御さんにももう少し勉強してもらわなくてはいけないのではないのか。子供のしつけの仕方がわからないとか、どう言ったらわからないとか。ここで教育相談の窓口はいっぱいあると、センターもあります、学校もある、それぞれあるけれども、相談に行かないお母さん、お父さんもあるのではないか。一つ総合的な相談施設ができたらいいのではないかという提言もありました。教育長からそういう動きがあるという御答弁をいただいております。

もう一つ、教師のゆとりの問題であります。先生方は少し忙し過ぎるのではないか。学校の先生の、あるいは学校の近くにお住まいの方は、お分かりかとは思いますが、学校の電気が長い時間ついていてというのです。あれは学校で教師が勤務しておるとい証拠だとは思いますが、そういう時間ということは教師にゆとりがないのではないか、少しスリム化、雑務を省く、そういう努力をしなければ子供に向かい合う時間が少ないのではないか。雑務はもう少し減らしてもらおうではないか。市教委の方、教育長はそういう努力をしておるということでもありますけれど、要らない仕事が多過ぎる。もう一つ、パソコンの向こうに子供がおるということでもあります。子供に面と向かう時間がもっとなくてはいけないのではないかということでもありました。

もう一つ、地域社会には連携という意味からたくさんの知的財産がある、いわゆる知的教育財産という言い方がいいかと思いますが、それぞれ得意な人がおられるのだ。退職されて時間を持っておられる人がおられるのだ。そういう方を大いに活用して、学校と地域を結ぶパイプになってもらってもいいのではないか。市の文化団体では出前授業というようなことをやられておりますし、学校によっては子供のクラブ活動の時間に地域の将棋の上手な方を招くという活動も行っておられるけれども、こういう地域連携の一つの姿をもっと充実していく時期にあるのではないかということでもありました。

次に、福祉の問題ですが、これは福祉全般で5 つばかり項目を上げておりますけれども、今さら私が申し上げるまでもなく福祉には極めてたくさんな分野があって、生まれてから死ぬるまですべて福祉で我々の社会は覆われていると言ってもいいくらいではないかと。そこで、福祉が前は支援あるいは措置という言い方であったけれども、今日は契約であるという話であります。こちらから申請をするということでもあります。加え

て法の改正と、極めてわかりにくい点が多々ある。もう少しわかりやすくしてもらいたいということで、透明性という言い方。それから、契約でありますから利害の関係が伴いますけれども、そこに公正という面についての配慮が十分なされるべき性格を持っておるということであります。

そこで、生まれる前からお墓参りをするまでの間にこういう福祉の窓口がありますというような、福祉の手引きのようなものを各家庭に配られてはどうかという提案でありました。こういう場合にはどこに相談に行く、こういう場合にはこういう福祉の援助があるということがわかるものをつくってほしいということでもあります。部長さんによりますと、来年度ぐらいにはできるだろうということでありました。

以下、民生委員という方の活動が大変福祉の問題にかかわってくるということで、実際に民生委員の方の活動は大変だということはあるけれども、充実をする必要があるということでありました。

それから、高齢者福祉と特別に出ておりますけれども、これはひとり暮らしの問題でありまして、ひとり暮らしの高齢者に対してどのように目が向けられておるのかということでもあります。

つまり、小地域サポート活動というふうなものをやっていただきたい。

児童虐待の防止につきましても、そこに書き上げておるとおりでありまして、読んでいただければそれで簡潔であります。

子育て支援につきましても以上のとおりであります。ただ、子育て支援につきましては、そこに書いておりますが、子育てのために会社をやめた。今度復帰するということときに大変問題が多いのではないかとということもあったようであります。

最後に、人権問題。人権は人間の基本的な問題でありますから、これにつきましては人権活動について、あるいは人権意識についてもう少し浸透を図り、PR をするべきではないかということがありました。

それから、ジェンダーフリーの問題。これは、男女共同参画というあたりから、女性、女性ということで、女性と男性はそれぞれ特性のあるものを持っておるのだから、それなりの活動をということでもあります。

最後に、人権擁護委員のあり方についてということで、公募制にしたらどうかという話がありました。

このあたりで終わらせていただきます。

八村会長 ありがとうございます。

それでは続いて、産業振興部会の報告をよろしくお願いします。

清水部会長 産業振興部会の清水です。限られた時間ですけど、報告させていただきたいと思えます。

産業ということになるとちょっと広範囲になりまして、農林漁がありまして、工業、商業というようなことにつながっていきます。7 ページを見ていただきまして、一番初めに、やはりこれからまず視点を姫鳥線開通に合わせていこうと、それからもう1つは、地場産のものを、地産地消もこれも入れていこうということと、それからやはり雇用につながるような産業の増大ということの一つの視点にして議論いたしました。

地域ブランドの構築でくくっておりますが、鳥取は小ロットで多品種になるけど、や

終的には、商売根性を農林漁、それから工業にしても商業にしてもお互いに出さないといけないのではないかとということが出ました。

工業の方ですけど、これの方はやはり2つあります。1つは、やはり誘致企業としての受け入れ体制がやりやすくなりましたので、そういう企業を入れて、核となる企業と協力工場を鳥取の地場の産業が応援していくというようなことで、雇用の場をふやしていく必要があるのではないかと。

それからもう1つは、やはりこれから時間距離が短くなって、中国山脈に風穴があきました。津山でも姫路でもどんどん出ていくことができます。私的ですけど、自分のところも、もう10年ぐらい前から津山近辺とはやっておりまして、その効果というのが一段と姫鳥線で出るような感じがしております。また、会議所としましても、津山との交流、向こうから来てもらったりこっちが出ていったり、それを今、姫路との交流に広げて、姫路の工業界とこっちが出ていく、向こうが来ていただくというようなことで出会いの場をこしらえていながら、結局個々の受注量がふえるような形というものを、やっぱりやっていったらどうかということがありました。

そういう中でやはり商店街の関係もこれから活性化ということがあるのですが、これはもう時間の方が限られておりますので、最後にこういうことはどうかなあと。駅前広場に観光バスがとまれるような、今は降りたところの樹木がかなり大きくなっております。やはり観光客が降りて商店街に歩いて行けるような環境づくりというものを何箇所か市内にも作っていただいたら、商店街の方の防衛策にも、それからまた発展にもつながっていくのではないかとというようなことが出ておりました。

そういうことで、農林漁、工業、商業のそれぞれが商売根性を持って今後もやっぱりやっていかないといけないということが出ましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上、終わります。

八村会長 ありがとうございます。

それでは続いて、文化観光部会の報告をお願いします。

山本委員 文化観光部会としましては、先ほど地域づくり部会とか産業振興部会等でも御提案されているのに関連しては、とにかく2009年の高速道路の開通を視野に入れて、より具体的な実践的な提案をめざしてこのプランづくりをしてみました。実際に会のメンバーで視察や体験をしたりしてつくっております。

特徴としましては、特に因幡の歴史文化に根差したテーマを設定してありまして、例えば8ページをごらんになっていただきますと、これは時系列に神話、平安、江戸、江戸、近代というふうな形で鳥取にゆかりのある偉人等を訪ねたルートというふうに設定してあります。

それと、また9ページにつきましても、鳥取砂丘を満喫するというので、例えば一番景観のいい鳥取ゴルフ倶楽部の上のところから多鯨ヶ池を展望するとか、西側コースと東側コースというような形で設定してありますし、次の10ページ等につきましても、これは気高の里を逍遙するで、これは気高エリアという形でくくっております。

11ページが八頭の里、12ページが高草郡、13ページが国府町というふうな形でまとめてあります。

それと14ページにつきましても、これはテーマで神話、伝説、万葉、それと15ペー

ジの池田光仲という形のテーマに絞ってまとめております。

16ページにつきましては、因幡の白うさぎと大国様、豊臣秀吉と鳥取城、鹿野城、童謡唱歌のまち鳥取という形で、これもテーマとしております。

17ページが特撰ということで、これは鳥取八景を遊ぶというテーマで砂丘、城跡、湖山池、河原城、気高、浜村、鹿野、佐治、国府という八景を設定して、より景観のいい場所を設定してみました。17ページの2につきましては鳥取の「食」を味わうということで、鳥取は本当に海の幸、山の幸、四季の味というのが多様な素材があるので、実際、17ページの下から2番目にありますホテルモナーク鳥取さんで食の魅力のPRということで、「鳥取イモコン鍋」というのを作り、みんなで食べたのですが、この前、これを台湾から商談で来られた4、5人の方にモナークさんが出されたら大変好評で非常にもう満喫して、とってもよかったというふうな評価を得ているということもございます。

簡単に流しましたけれども、実は皆様に御紹介したいのは、これは中海・宍道湖・大山圏域観光連携事業推進協議会とかという長たらしい名前ですけど、こういうところがこういったフリーペーパーを出しております、この連携がかなり進んでおります。また、JR西日本さんがこういう「北・近・畿」という、これはPR雑誌ですけども、これは何かといいますと、但馬、丹後、丹波、あと福井というようなものを一つのまとめたエリアとして売り出しています。もう一つ言いますと、四国の香川がこのさぬきうどん百店満点というふうな、さぬきうどん非常に売っています。

何が言いたいかといいますと、いわゆる今まで以上に北近畿エリアだとか中海、宍道湖圏の方々、そしてまた讃岐、香川、四国のエリアの方々も観光ということを非常にテーマとして連携して強化をされていますので、鳥取も本当に今まで以上にかなり真剣に具体的に展開をしていかないと、今までのようなことではなかなか開通してもまだまだ人の流れが弱いのではないかと、そういう危機感を持っておりまして。それで、先ほどの部会では、できればこういうふうなテーマを設定したものをモニターツアーのような形で実際に市民の方にも、あるいはプロの方にも乗っていただいて、それで体験していただいて、商品化できるものはどんどん商品化していただきたいという御提案もしておりますので、ぜひそういう点では鳥取市の側も民間との連携を進めていただいて、より1歩でも2歩でも実現させていただきたいというふうに思っている次第でございます。

以上、大変はしょりましたけれども、文化観光部会の報告にさせていただきます。どうもありがとうございました。

八村会長 ありがとうございました。短い時間で要領よく報告していただきました。詳しい内容については、資料を見ていただきたいと思います。

それでは、一応御報告を終わりましたので、委員の皆さん方から御意見がありましたらお伺いをしたいと思います。今までの御報告以外にというか、中でも補足意見があるというようなことがありましたら、部会とお名前とを伺って、御意見を述べていただきたいと思います。挙手をお願いします。特にございませんか。時間が限られておりますので、十分に皆さんの御意向が伝わっていない部分もあると思いますので、よろしいでしょうか。

ないようでしたら、それでは以上でもって最終の御報告の会を終わらせていただきま

す。どうもありがとうございました。

田中企画調整課長 どうもありがとうございました。

そういたしましたら、各部会報告の感想等も交えまして、竹内鳥取市長の方がごあいさつを申し上げます。

竹内市長 皆さん、本当にありがとうございます。現在、4つの部会からの報告をいただきました。振り返りますと合併後の平成17年1月1日から18年12月末までの任期での市政懇話会に御参加をいただき、本当に各部会で熱心に御議論をいただき、そしてきょうの全体会はその報告も兼ねた会としていただいたところでございます。八村会長さんを初め、各部会の部会長さん、そして委員の皆さんに本当に感謝を申し上げたいと思います。

各部会での発表の全体をカバーするような話はできませんけれども、まず、何をさておいても少し部会に関連したお話をさせていただきたいと思います。特に地域づくり部会からは、中山間地域(合併地域)、合併地域ということですから合併前の旧鳥取市と、その合併した8つの町村の地域などを特に念頭に置いているということでの中山間地域の振興策でございますが、大変これまで十分でなかった点などを特に指摘をしていただいていると思います。

例えば、伝統産業などの文化型産業の振興といった御指摘も、和紙の例とか、あるいは食品産業とかの例も挙がっておりますが、もっとも合併後の鳥取市として、特に中山間地域の振興といった観点からも重要性が高いと思います。また中心市街地の点もちょっと触れられておりますが、中心市街地の活性化という側面ではなくて中心市街地が持つ役割として中山間地域からの、例えばここでも出ておりますが、特産品の出展と。例えば朝市のような形もあるかと思いますが、そうした場所として従来のショッピングセンター、ショッピングモール、郊外の大店とは違う大きな機能を中心市街地が中山間地域との間で果たすことができるといった御指摘には、本当に改めて目を開かせられたなと思っているわけでございます。

地域イベント暦をつくるだとか、旧町村の特産品の交流フェアというものを持ち回りでやってはどうかといった御提案にも新しい視点と、それからの確かな御指摘とございますが、そうしたものを感じたところでございます。

そのほか、インフラ整備の議論も同様に新しい観点から道の標識だとかというようなお話もありますし、まだまだ十分に点検ができていない部分を御指摘いただいていると思っております。それとあわせてコミュニティの充実・強化につきましても、公民館の位置づけのお話もございましたし、やはり地域での取り組みを強化していく必要があると。私もローカルマニフェストの中でも申し上げてきておるわけでございますが、こうしたお考えをできる限り実現をしていきたいと思っております。

教育福祉で、子供の命の危機のお話がございました。行政の方も取り組みを進めておりますが、やはり地域の中でこうした課題について積極的な取り組みが見られることが心強い限りでございますし、パートナーシップの考え方で地域と行政が連携をとりながら進めていきたいと思っております。

そのほか、教育にかかわる御指摘、モラル、マナー、ルールあるいは親の学習、教師のゆとりといった点も十分に踏まえて取り組まなければならない問題だと思っております。

福祉の問題についても、いろいろな角度から長期的に見て福祉全般についての取り組みも御指摘をいただきましたし、透明性、公平性など大事な視点を上げていただきました。

民生委員、児童委員についても充実させることとありますが、私も、また改選期を迎えるということもありまして、県にも働きかけながら、できるだけ増員を図っていくという方向で取り組んでいきたいと思っております。やっぱり地域の中で民生委員、児童委員の果たしている役割が大きいという声を聞いておりますので、そういった積極的な姿勢で取り組みたいと思っております。

そのほか、児童虐待、子育て支援、こうしたことについても既に、最近喜んでいただいております子育て広場の充実だとか、あるいは保育園の入園の積極的な待機児童解消作戦、こうした点もございます。

人権についての御検討についても、今、今後の取り組みについて鳥取市としての計画づくりなども進めておりますので、今の時代や状況に合った形での的確な推進をしたいと考えております。

産業振興、これは今の鳥取の地域は有効求人倍率が低いなど、雇用でも厳しい情勢がありますし、私もマニフェストの中でも高速道路を生かした地域経済の活性化を言っておりますが、大変具体的に提案をいただいておりますし、ぜひ一つ一つよく吟味して実現を図りたいと思っております。

商売根性ということも言われましたが、中心市街地の活性化にしても、そのほか産業活動全般にしましても、これから高速道路が繋がりますと京阪神の経済圏がこの鳥取の地域をも包含していくとか、含めていくということになるわけで、お互いに厳しい競争ということも出てくるわけです。そういったことを考えますと地域ブランドの構築なり、地場産業の活性化とか魅力の発信とか、こういったことが当然必要になりますし、やっぱり一人ひとりの経済人の方がしっかりとその根性といいますか、意欲と創意工夫を凝らしていただいて取り組んでいただくことが必須条件になるかと思っておりますので、閉鎖的だったこの地域が高速道路で風通しがよくなるということは競争も厳しくなるということですので、ぜひ行政と経済界が力を合わせて打って出る気持ちでやっていこうというのを今のお話の中で感じたところでございます。

駅前広場、駅の北口を御指摘でございましたけども、ずっと課題だと私も思っておりますし、県との連携も図りながら改善を図っていきたいと思います。

それから、文化観光部会の御提案は非常に具体的で、かつ魅力あふれるものでございますので、例の 2009 鳥取・因幡の祭典に向けて大いに生かしていきたいと考えております。幸い基本構想が大体まとまりまして、今月の中ごろには実行委員会の立ち上げを予定しております。そこで具体の事業を取り込んでいきますので、その事業計画の中にこういう観光のルートといいますか、いろいろな個別に提起していただいておりますテーマを因幡の魅力としてどんどん打ち上げていきたいと思っております。

御指摘のありましたように、中海、宍道湖圏の連携はどんどん進んでおりますし、それから、片や北近畿の方の動き、あるいは整備、この間もちょっと城崎温泉の現状を少し見てきましたけれども、カニのシーズンということもあると思っておりますが随分にぎわっております。やっぱり食と温泉というのは非常に観光の大きなテーマですよ。それ

はこの因幡でも必ず実現できるし、もうやらなくてはならないと。食と温泉とを魅力ある、やはり体験のできる観光の資源を生かして、大いにこの因幡という鳥取県東部を中心に、それから中海、宍道湖圏に必ずしも属していないと見られる中部地域ですね、今は三徳山とかそういったいろんなこともありますし、宿泊機能を持った三朝とか湯梨浜などの施設もあるわけです。これはもう鳥取に近接しているわけですので必ず一緒に連携をとれるのではないかと。そして、東の但馬の香住以西とでも言いますか、こうした地域は鳥取との経済圏に考えられる地域ですよ。ここを一つの大きな圏域と考えながら観光振興を十分図って、この 2009 鳥取・因幡の祭典を通じて図っていけば、大きく変わる可能性があるかと、そして今から準備することによって情報発信にしても、磨きをかけるといった取り組みについても有効にできるものと思っております。大変有効な御検討をいただいていることに感謝をしたいと思います。

そうした具体の各部会での御検討を我々として真摯に受けとめて施策に移していくことをまず御報告、お話を申し上げたいと思います。

そして、合併後の鳥取市が満 2 年を迎え、そして今 3 年目に入っているわけでございます。新しい市議会の 36 人の議員さん方も満を持して今月始まる 12 月議会でいろんな御議論を提起されると思います。鳥取の行政は決して完全なものではない、十分ではないものであるということも感じますけれども、しかし、前向きに合併後の鳥取市を前進させるべく取り組んでおるわけございまして、そういう意味で、市政懇話会の委員の皆様方大変御指導をいただきまいりましたけれども、こうした報告の結果も踏まえながら、しっかり 20 万都市のさらなる前進ということを私も掲げておりますが、これからもこのテーマで頑張っていきたいと思っております。

年が明けてまた新しいスタートも切っていかなければなりません、そうしたことにつきましてもこれからまた十分研究して、市政懇話会、これは条例に基づいて設置しております大切な組織でございますので、これからもそうしたことについても十分内部で練って新しいスタートをさせていただきたいと思っております。

年末のお忙しい中をこうして御出席をいただき、本当にありがとうございます。これまでの大変な取り組みに心から感謝を申し上げまして、そしてこれからも一緒になって鳥取市の発展を支えていただきますようお願いを申し上げます、私のごあいさつにさせていただきます。本当にありがとうございました。

田中企画調整課長 それでは、以上をもちまして市政懇話会を終了いたします。委員の皆様、どうもありがとうございました。